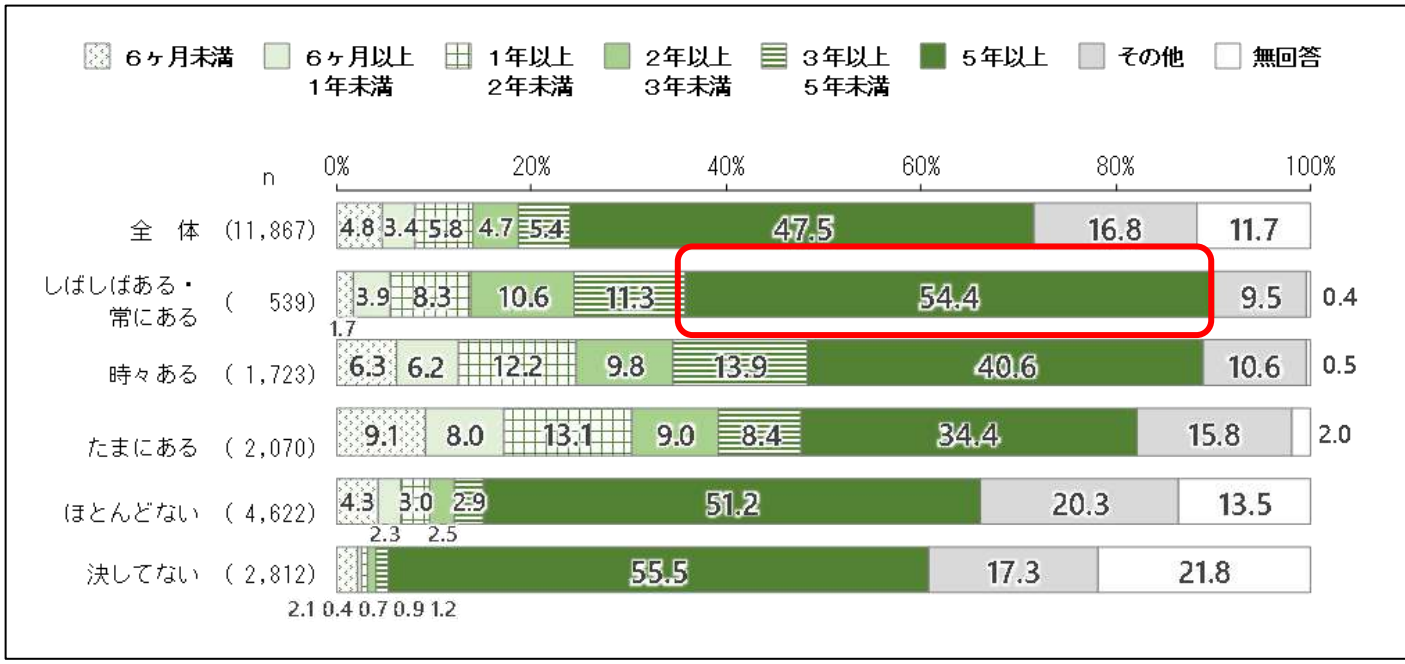


○ 現在の孤独感の継続期間

■孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の54.4%が5年以上、その期間が継続していると回答



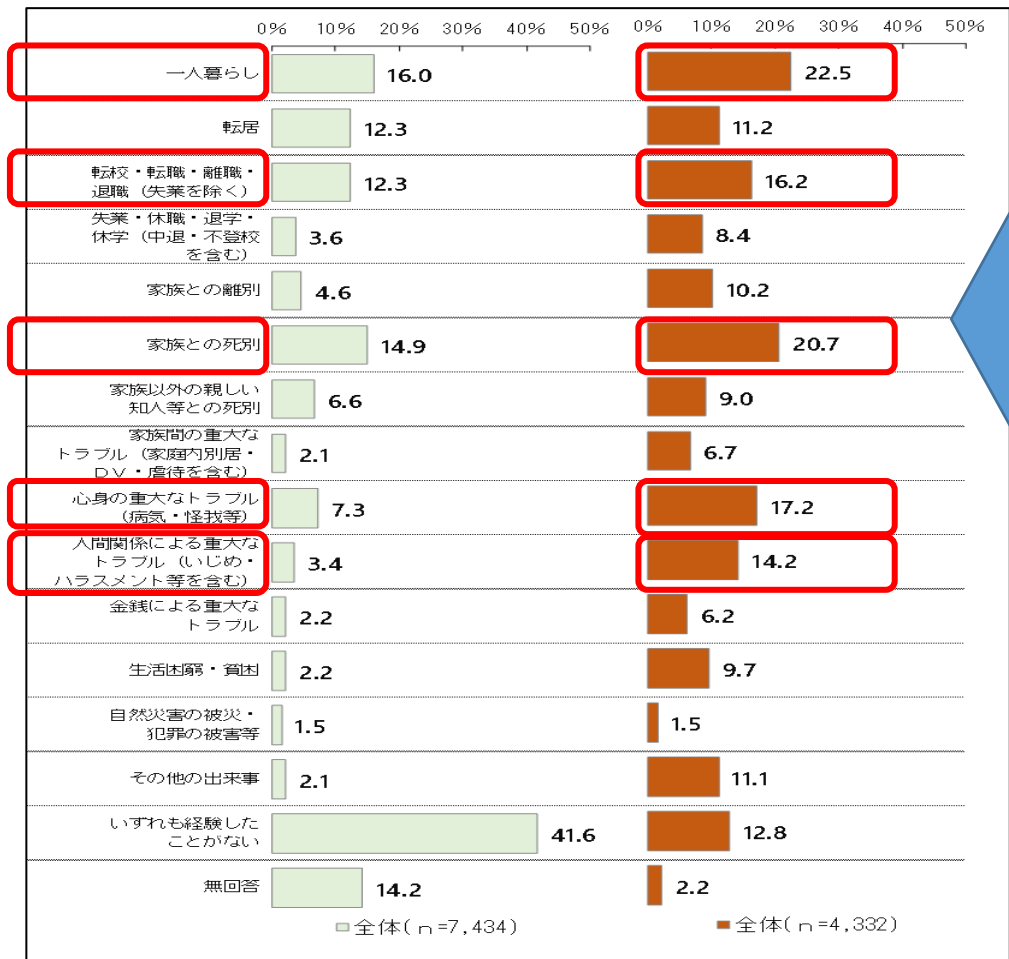
【図14】現在の孤独感の継続期間



○ 現在の孤独感に至る前に経験した出来事

■ 孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」、「たまにある」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事としては、「一人暮らし」、「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」、「家族との死別」、「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」、「人間関係による重大なトラブル（いじめ・ハラスメント等を含む）」を選択した人の割合が高かった

【図15】現在の孤独感に至る前に経験した出来事（複数回答）



○右側のグラフは孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」、「たまにある」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を集計したもの

○左側のグラフは孤独感が「ほとんどない」、「決してない」と回答した人がその状況に至る前に経験した出来事を集計したもの

※経験した出来事を全て選択する複数回答方式による

○ 孤立の把握方法

■ 孤立については、国内の先行研究などを参考に以下の4つの状況から社会的孤立の状態を把握

① 社会的交流

(家族・友人等との交流)

② 社会参加

(PTA活動、ボランティア活動、スポーツ・趣味等の人と交流する活動への参加)

③ 社会的サポート

(行政機関やNPO等からの支援)

④ 社会的サポート

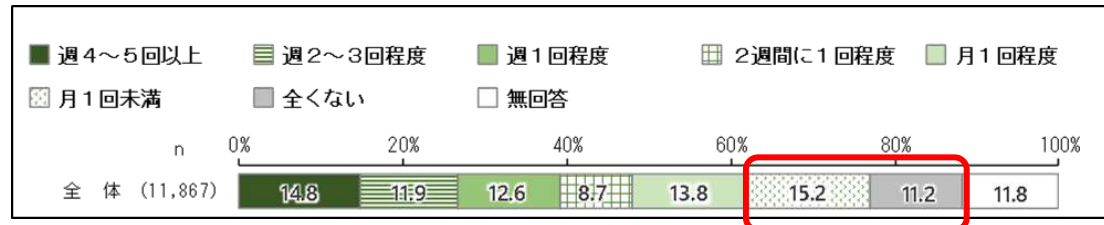
(他者への手助け (まわりで困っている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしているか))

①社会的交流の状況

■同居していない家族や友人たちと直接会って話すことが全くない人の割合が11.2%、月1回未満の人の割合が15.2%

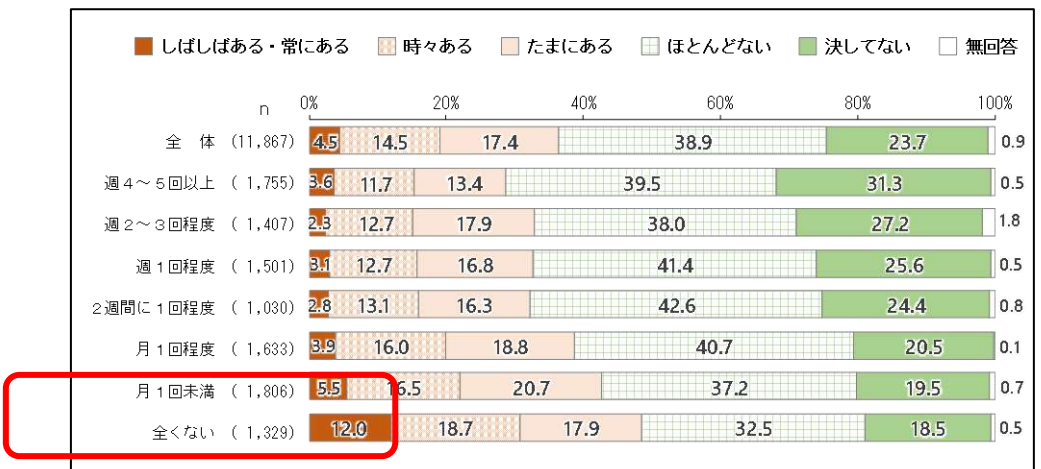


【図16】 家族や友人と直接会って話す頻度（同居人を除く）



■これらの人については、孤独感が「しばしばある・常にある」という割合が高い

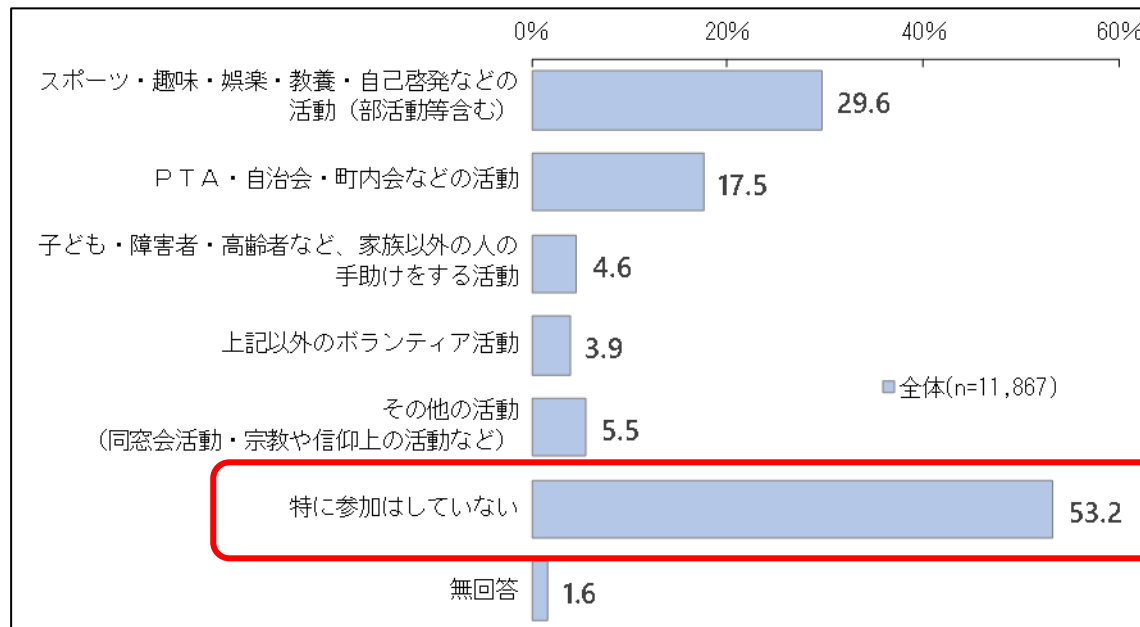
【図17】 「直接会って話す」頻度別孤独感



②社会参加の状況

- 現在の社会活動（人と交流する活動のみ）への参加状況では、特に参加はしていない人の割合が53.2%で最も高い
- 参加している人については「スポーツ・趣味・娯楽・教養・自己啓発などの活動（部活動等含む）」への参加を選択する割合が最も高く、29.6%であった

【図18】社会活動への参加状況【複数回答】

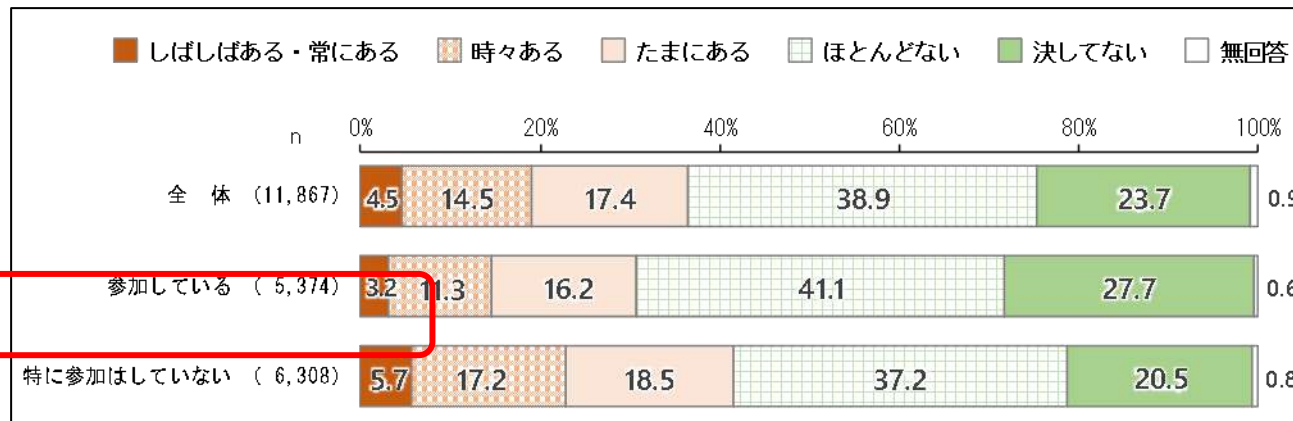


②社会参加の状況（続き）

■孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、社会活動に参加している人が3.2%、特に参加はしていない人が5.7%となっている。



【図19】社会活動への参加状況別孤独感

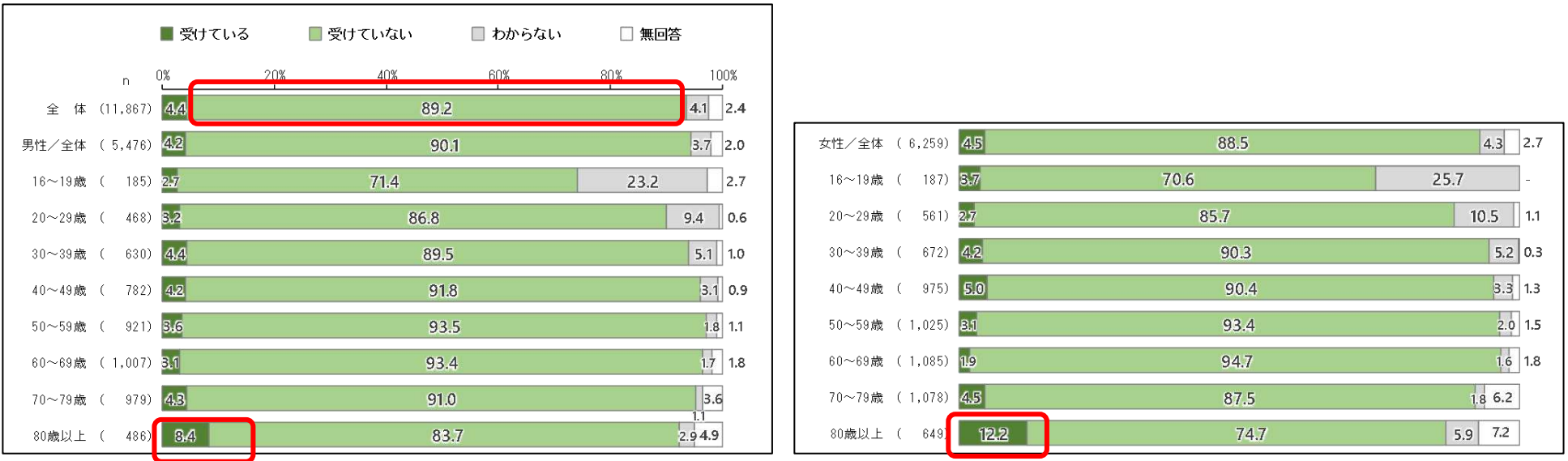


③社会的サポート（行政機関やNPO等からの支援）

- 社会的サポート（行政機関やNPO等からの支援）について、支援を受けていない人の割合が89.2%であった
- 80歳以上で支援を受けている人の割合が高くなっている（男性8.4%、女性12.2%）



【図20】男女，年齢階級別各種支援の受領状況



③社会的サポート（行政機関やNPO等からの支援）（続き）

■孤独を感じる頻度が高くなるほど、「支援が必要であるが、我慢できる程度であるため」、「支援の受け方がわからないため」、「支援を受けるための手続きが面倒であるため」などの理由を選択する人の割合が高い



【図21】孤独感別支援を受けていない人の理由【複数回答】 (%)

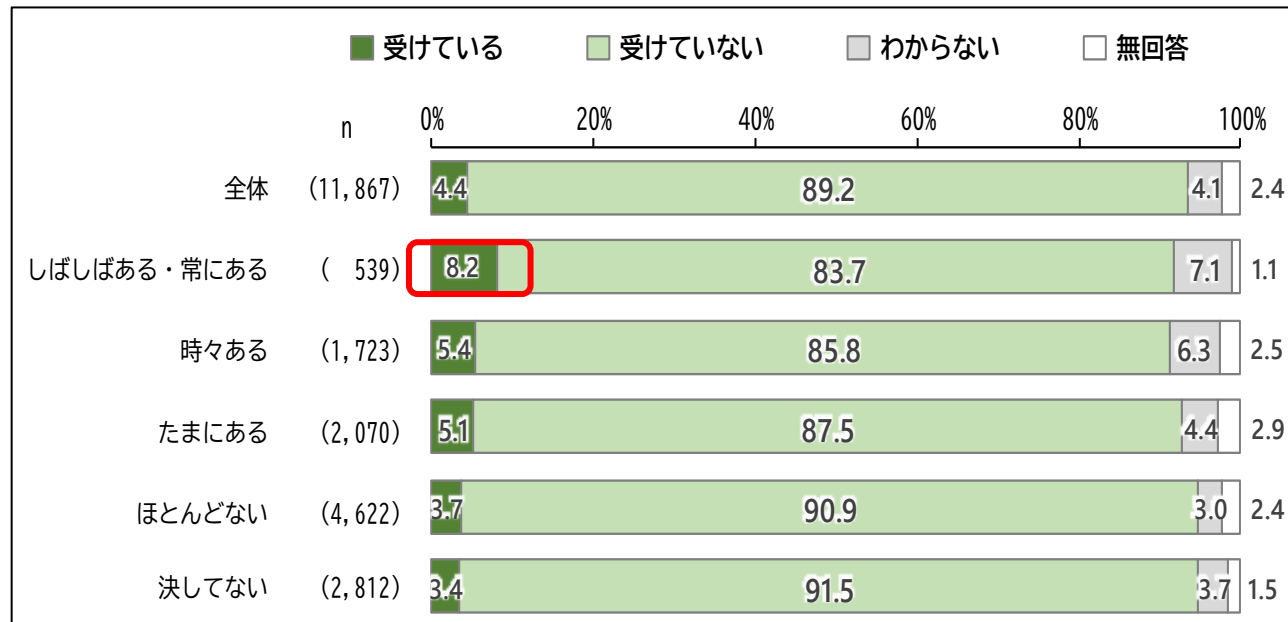
	n	支援が必要ではないため	支援が必要だが、我慢できる程度であるため	支援の受け方がわからないため	支援を受けるための手続きが面倒であるため	支援を受けると感じるが、恥ずかしいと感じるため	支援を受けると相手への負担をかけるため	支援を申し込んだが（断られた場合を含む）	その他	無回答
全体	10,581	85.0	6.8	7.2	2.9	1.2	0.7	0.5	2.5	1.8
しばしばある・常にある	451	60.5	13.7	23.3	9.1	4.2	4.2	2.7	8.2	1.3
時々ある	1,478	74.4	12.4	12.4	5.0	2.8	1.4	1.4	3.5	2.4
たまにある	1,812	82.2	8.9	9.4	4.1	1.8	1.2	0.3	3.0	1.5
ほとんどない	4,201	89.2	5.0	4.5	1.8	0.5	0.3	0.3	1.9	1.6
決してない	2,572	91.3	3.7	4.0	1.6	0.3	0.2	0.2	1.6	1.9

③社会的サポート（行政機関やNPO等からの支援）（続き）

■孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、8.2%の人が現在、行政機関やNPO等から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く。）を受けている



【図22】 孤独感別行政機関・NPO等からの支援の有無

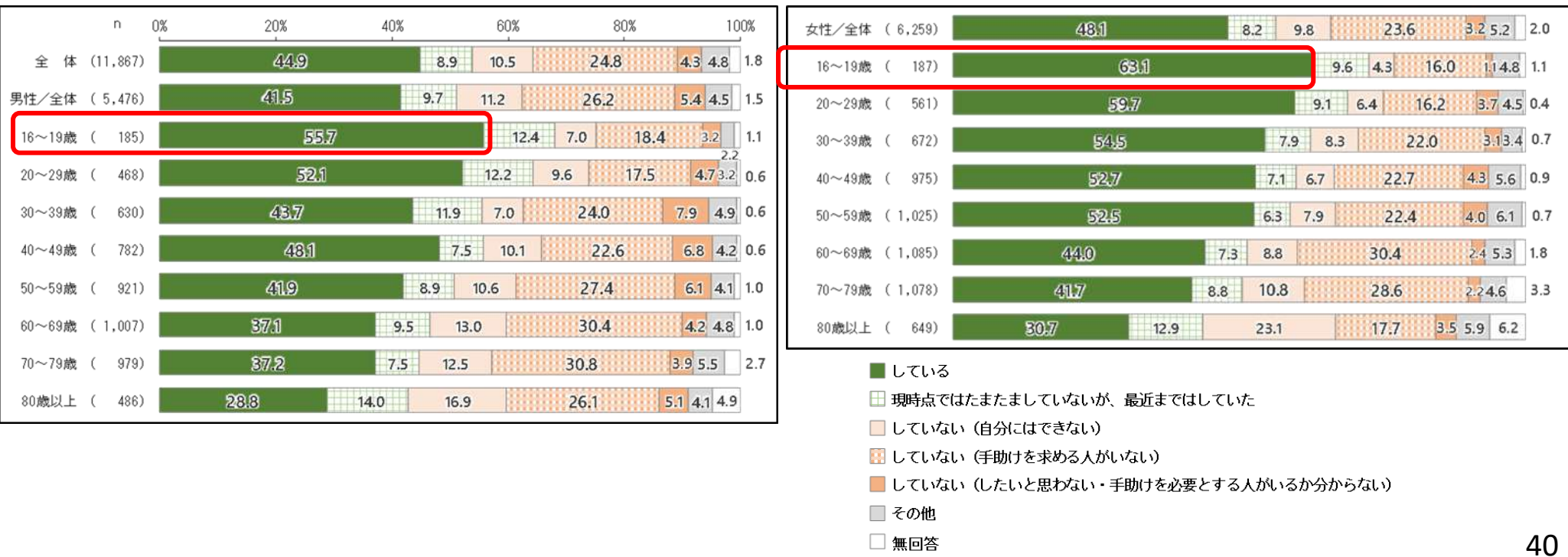


④社会的サポート（他者への手助け）

■手助けをしている人は、全体では44.9%で、男女ともに16歳から19歳でその割合が最も高く、男性で55.7%、女性で63.1%となっている



【図23】男女，年齢階級別他者への手助け状況

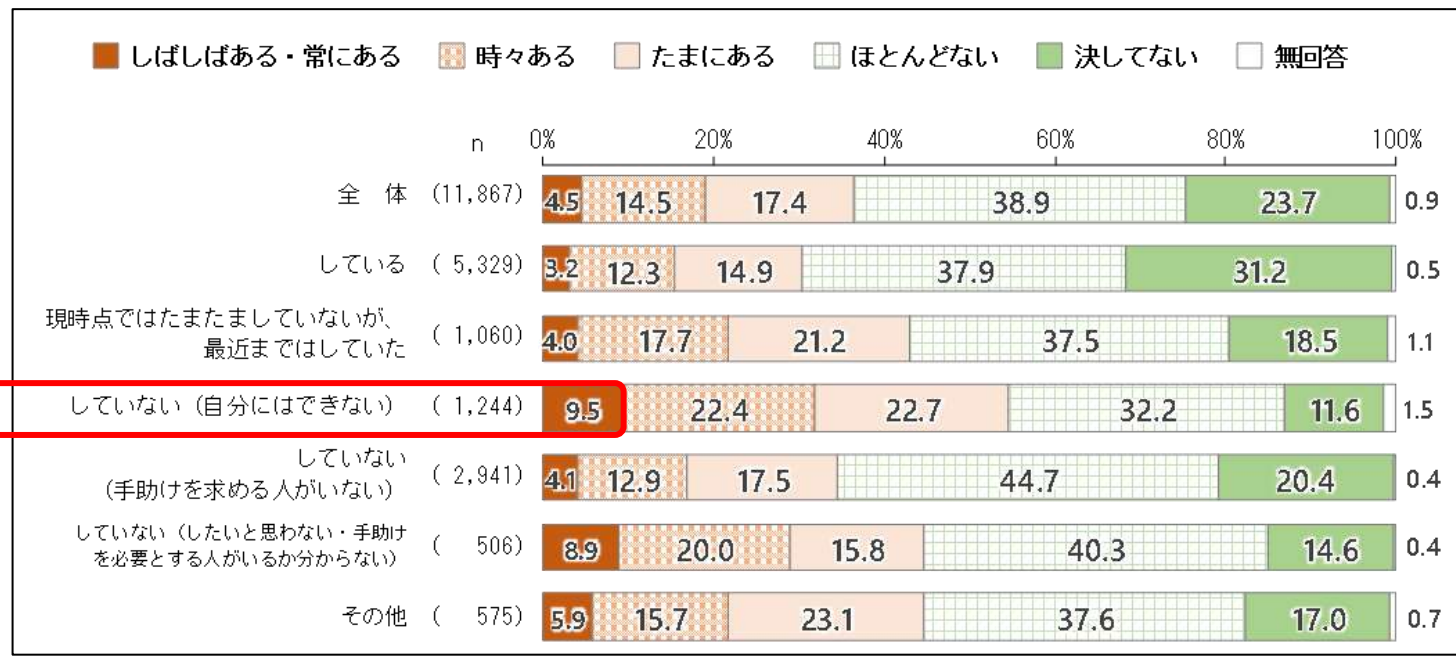


④社会的サポート（他者への手助け）（続き）

- 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、手助けをしていない（自分にはできない）という人が9.5%で最も高い
- 一方、その割合が最も低いのは、手助けをしている人で3.2%となっている



【図24】 他者への手助け状況別孤独感

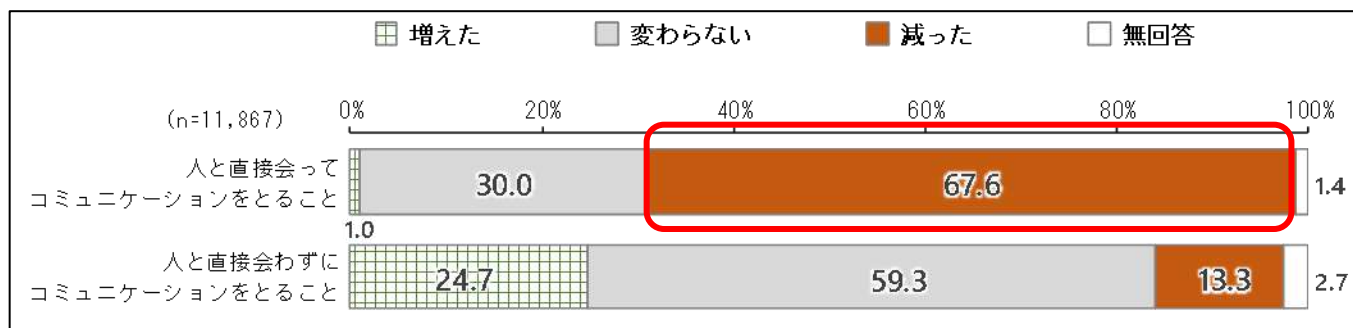


○ コロナ禍におけるコミュニケーションの変化

- 本調査では、新型コロナウイルス感染拡大により、人とのコミュニケーションにどのような変化があったか、また、日常生活にどのような変化があったかを把握
- 人と直接会ってコミュニケーションをとることが減ったと回答した人の割合は、67.6%であった



【図25】 コロナ禍におけるコミュニケーションの変化



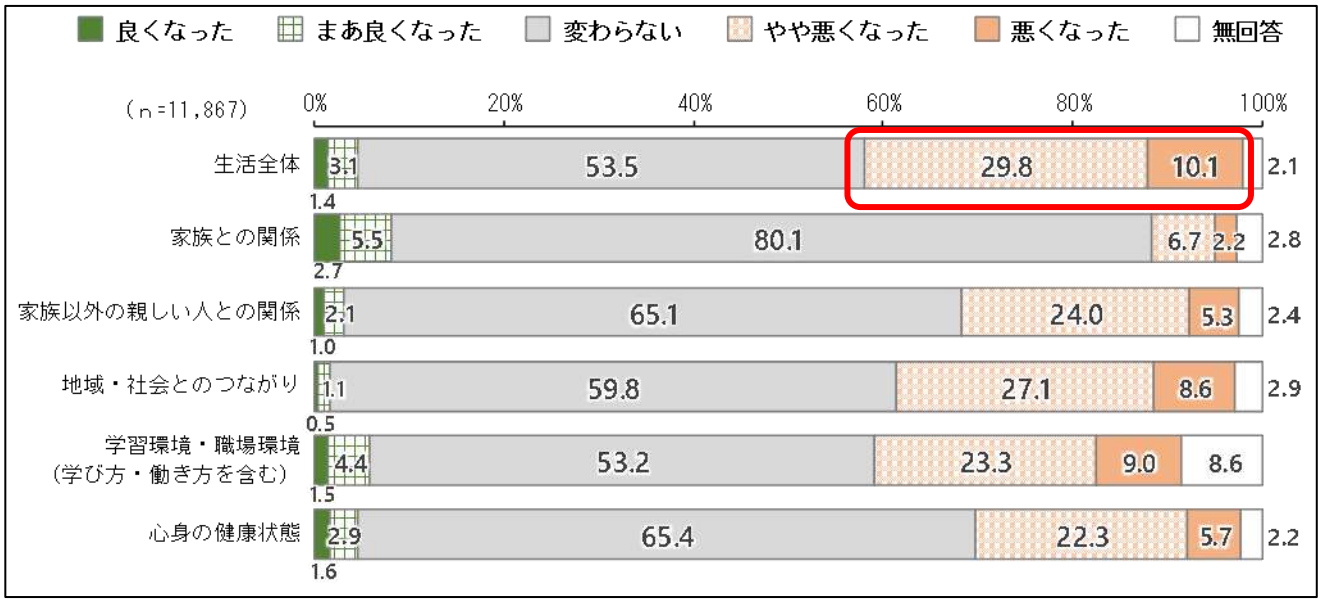
○ コロナ禍における日常生活の変化

■日常生活の変化について、生活全体では53.5%の人が変わらないと回答

■生活全体が「悪くなった」との回答が10.1%、「やや悪くなった」が29.8%であった



【図26】 コロナ禍における日常生活の変化



○ 実態把握の位置づけ

- 孤独感がある人の年齢層や性別などのほか、現在の孤独感に至る前に経験した出来事、社会的孤立の状態などの全体的な傾向が、政府統計として初めて明らかになった
- 令和4年度も引き続き、孤独・孤立の実態把握に関する全国調査を実施。
継続的に孤独・孤立の実態把握に努める予定